

課 題 名	11 極早生温州の栽培技術の確立	分類	①
	(2)極早生温州の幼木における樹冠全摘蕾・摘果による早期樹冠の拡大		
試 験 研 究 年 次	63~2年 (完了)		
<p>I 目 的</p> <p>極早生温州の植栽後における樹冠全摘蕾や摘果が樹の生育に及ぼす影響を明らかにして、早期成園化のための結実管理技術確立に資する。</p>			
<p>II 試 験 方 法</p> <p>1 試験場所 園芸研究所果樹圃場</p> <p>2 供試品種 カマキ台 3年生宮本早生、上野早生、崎久保早生及びコナハに植えたカマキ台 5年生の山川早生</p> <p>3 処理方法 63年4月に上記3年生幼木を植え付けし、植え付け年の63年、1年、2年の3年間を樹冠全摘蕾して無結実区とする区と植え付け年から結実させる区を設けた。なお、宮本早生の無結実区は2年度から結実させた。</p> <p>山川早生は、63年に全摘蕾と満開20日後の全摘果を行った。</p> <p>4 調査方法 3年生幼木は植え付け時から2年度までの幹周、樹容積並びに果実の収量を結実区と無結実区を比較した。</p> <p>山川早生は処理後の8月と12月に樹を解体し、枝葉量、直径2mm以下細根量等を調査した。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>樹勢が弱い極早生温州の幼木は、植え付け後2~3年間、樹冠全摘蕾や摘果を行うことにより樹冠の早期拡大や樹勢の維持が図れる。なお、結実開始は樹冠の拡大状況に応じて行う。</p> <p>1 植え付け後2~3年間結実させないと、幹周は結実させた樹より25~30%大きくなり、樹容積は3~5倍に拡大できる。品種間では宮本早生で効果が大きく早く結実できる。</p> <p>2 樹冠全摘蕾や全摘果処理は、山川早生では葉数が結実樹(無処理樹)の2~3倍となり細根量は1.5~2.0倍に増加する。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 極早生温州における幼木の結実の有無と樹冠の拡大 (2年)

品種	結実の有無	幹 周					樹 容 積					累積収量
		62年	63年	1年	2年	伸 び 率	62年	63年	1年	2年	伸 び 率	
		cm	cm	cm	cm	%	m ³	m ³	m ³	m ³	%	kg
崎久保	結 実	6.2	7.0	9.3	9.2	148	0.2	0.4	0.2	1.1	466	6.6
早 生	無結実	6.6	8.0	11.3	12.2	185	0.2	1.2	1.6	2.5	1,045	0
宮 本	結 実	6.2	7.0	10.0	11.3	182	0.3	0.4	0.8	2.0	613	12.7
早 生	無結実	6.7	8.0	13.0	14.5	216	0.2	0.9	2.4	4.9	2,557	5.7
上 野	結 実	6.5	7.0	8.0	9.5	146	0.2	0.2	0.2	0.5	312	4.8
早 生	無結実	5.9	7.0	10.0	12.0	203	0.1	0.4	0.8	2.4	2,390	0

注) 62年度データは植え付け時で伸び率は対62比、宮本早生無結実樹の収量は2年度分

第2表 山川早生の摘蕾・摘果と新梢、新根の発生 (63年)

試験区	調査時期	摘蕾 摘果 数	葉 数			新梢 本 数	細根 量 g	新根 発生数	結実 数
			旧葉	新葉	計				
		月 日	個	葉	葉	葉	g	本	個
摘 蕾	8.11	2,532	13	1,695	1,708	377	474	8,307	-
	12. 5	2,139	20	1,716	1,736	318	415	-	-
早期摘果	8.11	268	62	1,408	1,470	286	415	12,373	-
	12. 5	36	123	1,427	1,450	247	827	-	-
無 処 理	8.11	-	386	594	980	211	319	2,500	67
	12. 5	-	54	490	544	150	248	-	27

注) 新根発生数は調査時に伸長していた根端数

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 極早生温州の幼木の早期樹冠拡大や樹勢維持のための結実管理法として利活用できる。
- 2 摘蕾や摘果が遅れると、多くの労力を要するとともに樹体内養分の消耗を大きくする。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 極早生温州の品種や樹勢の強弱と果実の養分吸収能
- 2 結実開始後の樹の生育と収量

VII 資料名

- 1 元年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書
- 2 2年度常緑果樹関係試験成績概要集 (農林水産省編)
- 3 福岡県農業総合試験場研究報告B (園芸) 第10号